

科目名	運動器障害学				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	203・204教室
授業概要	運動器障害とは、骨・関節・筋肉・腱・靱帯・神経など身体を支えたり動かしたりする組織の障害である。いわゆる整形外科疾患として理学療法・作業療法の対象となる機会も多い。この授業では、代表的な整形外科疾患の病態と治療法の概要について学習する。								
一般目標	- 各種整形外科疾患の病態に関する知識を修得する。 - 各種整形外科疾患の治療法の概要について知識を修得する。								
テキスト 参考書等	リハビリテーションのための整形外科の歩き方(南江堂)								

到達目標		
知識(認知領域) ・授業で取り上げた疾患および治療法について説明できる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・授業に出席できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	整形外科総論 整形外科は運動器を扱う科	- 整形外科の定義について説明できる。 - 代表的な運動器疾患の特徴について簡潔に説明できる。 - 運動器疾患の分類について説明できる。
2	骨疾患① 骨折を軸に骨疾患を考える	- 骨の構造、骨のリモデリング、骨の成長について説明できる。 - 骨折の分類について説明できる。 - 開放骨折、病的骨折、疲労骨折について説明できる。
3	骨疾患② 骨折の治療1	- 骨折治療の流れと骨折の保存療法の概要について説明できる。 - 機軸遠位端骨折の分類と保存療法の概要について説明できる。 - 人名のついた骨折の骨折部位を答えることができる。
4	骨疾患③ 骨折の治療2	- 骨折の手術療法の概要について説明できる。 - 骨折の代表的な合併症について説明できる。
5	骨疾患④ 骨折の治療3	- 偽関節と骨壊死について説明できる。 - 舟状骨骨折の概要について説明できる。 - 大腿骨近位部骨折の概要と治療原則(リハビリテーション含む)について説明できる。
6	変形性関節症① 総論 変形性膝関節症	- 変形性関節症の病態と治療原則について説明できる。 - 変形性膝関節症の病態と治療の概要について説明できる。
7	変形性関節症② 変形性股関節症	変形性膝関節症の病態と治療の概要について説明できる。
8	関節リウマチ	関節リウマチの病態と治療の概要について説明できる。
9	靱帯の外傷・疾患	- 捻挫・脱臼の病態と治療の概要について説明できる。 - 足・膝関節靱帯損傷の病態と治療の概要について説明できる。 - 半月板損傷の病態と治療の概要について説明できる。
10	腱・筋の外傷・疾患	- 肩関節周囲炎・腱板損傷の病態と治療の概要について説明できる。 - 手指屈指筋腱損傷の病態と治療の概要について説明できる。 - アキレス腱損傷の病態と治療の概要について説明できる。
11	末梢神経および脊椎・脊髄の疾患①	- 末梢神経損傷の病態と治療の概要について説明できる。 - 絞扼性神経障害の病態と症状について説明できる。
12	末梢神経および脊椎・脊髄の疾患②	神経根障害の病態と治療の概要について説明できる。
13	末梢神経および脊椎・脊髄の疾患③	脊髄疾患の病態と治療の概要について説明できる。
14	小児整形外科	小児整形外科疾患の病態と治療の概要について説明できる。
15	まとめ	運動器疾患のポイントについてまとめることができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	山本 悟		実務経験紹介	理学療法士として約35年間、整形外科関連医療施設に勤務(現在、非常勤勤務)	

科目名	解剖学ⅢA					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	3F基礎医学実習室・木工金属陶工室	
授業概要	解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり、医学の基礎である。本講義では、運動器系の基礎となる骨と関節について、講義や小グループによる演習を行って学習する。									
一般目標	①骨の名称や部位名など骨に関する基礎知識を習得する。また、各骨の構造の特徴など基本的構造について知識を習得する。 ②頭部、四肢、体幹に存在する関節の名称と構造の概要について知識を習得する。									
テキスト 参考書等	教科書：プロメテウス解剖学 コア アトラス 第3版（医学書院）/PTOT基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編（南江堂） 参考書：解剖学講義 南山堂、系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①（医学書院）									

到達目標		
知識(認知領域)		
・骨の構造、名称、部位名称、特徴を覚えることができる。また、骨模型を模写できる。 ・関節の構造、名称を覚えることができる。		
技術(精神運動領域)		
骨模型を使用して、名称、部位名称を説明できる。		
態度(情意領域)		
意欲的に授業に参加する。		
回数	授業内容	授業目標
1	解剖学総論	骨解剖を学ぶにあたり基礎的な医学的用語を理解し説明できる。
2	骨学総論(骨格系)	骨の構造や発生について総論的に理解し説明できる。
3	全身骨格	骨格全体の成り立ちを把握するとともに、個々の骨の名称や数を説明できる。
4	骨と関節1(鎖骨・肩甲骨)	鎖骨、肩甲骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
5	骨と関節2(上腕骨)	上腕骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
6	骨と関節3(尺骨・橈骨)	尺骨・橈骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
7	骨と関節4(手の骨)	手部の骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
8	骨と関節5(胸骨・肋骨)	胸骨・肋骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
9	骨と関節6(頭蓋骨)	頭蓋骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
10	骨と関節7(寛骨)	寛骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
11	骨と関節8(大腿骨・膝蓋骨)	大腿骨・膝蓋骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
12	骨と関節9(脛骨・腓骨)	脛骨・腓骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
13	骨と関節10(足の骨)	足部の骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
14	骨と関節11(椎骨・仙骨・尾骨)	椎骨・仙骨・尾骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
15	まとめ	筆記・口頭試問を見据えて、知識を整理できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	東野 幸夫、松原 早苗		実務経験紹介	病院勤務において、骨・関節の治療に携わった経験あり(松原)。	

科目名	解剖学ⅢB					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	3F基礎医学実習室・木工金属陶工室	
授業概要	解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり医学の基礎となっている。本講義では、運動器系の基本となる筋について学習する。									
一般目標	①骨格筋の一般的な構造と機能についての知識を習得する。 ②人体の主要な骨格筋について、その構造(起始・停止、走行、神経支配など)を知り、その作用についての知識を習得する。									
テキスト 参考書等	教科書：プロメテウス解剖学 コア アトラス 第3版(医学書院)/PTOT基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編(南江堂) 参考書：解剖学講義(南山堂)/系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①(医学書院)									

到達目標		
知識(認知領域)		
①筋:筋の名称、起始、停止、作用、神経支配を覚え、筋模型で説明できる。 ②筋の構造上の特徴を覚え、説明できる。		
技術(精神運動領域)		
・なし		
態度(情意領域)		
・授業に積極的に参加することができる。 ・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	筋学総論、運動方向の名称	・筋組織の種類や特徴、骨格筋の基本的構造について説明することができる。 ・骨格筋の生理的作用や筋による運動方向などの基本的作用について説明できる。
2	肘の筋	・肘関節周囲の各筋の名称や構造について説明することができる。
3	肩甲上腕関節の筋	・肩甲上腕関節周囲の各筋の名称や構造について説明することができる。
4	上肢帯の筋	・上肢帯の各筋の名称や構造について説明することができる。
5	手外在筋①	・手外在筋に含まれる筋の名称と構造について説明することができる。
6	手外在筋②	・手外在筋に含まれる筋の名称と構造について説明することができる。
7	手内在筋	・手内在筋に含まれる筋の名称と構造について説明することができる。
8	内・外寛骨筋	・内・外寛骨筋の各筋の名称や構造について説明することができる。
9	深層外旋六筋	・深層外旋六筋について各筋の名称と構造について説明することができる。
10	大腿前面の筋	・大腿前面の各筋の名称や構造について説明することができる。
11	大腿後面、内側の筋、演習	・大腿後面、内側の各筋の名称や構造について説明することができる。
12	下腿前面、外側面の筋	・下腿前面、外側面の各筋の名称や構造について説明することができる。
13	下腿後面の筋	・下腿後面の各筋の名称や構造について説明することができる。
14	足底、背部、腹部の筋	・足部、背部、腹部の各筋の名称や構造について説明することができる。
15	顔、頸部の筋	・顔、頸部の各筋の名称や構造について説明することが出来る。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト	○			評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	石丸 拓也・松原 早苗		実務経験紹介	石丸:15年間臨床現場での治療経験あり。	

科目名	解剖学ⅢC					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	治療室	
授業概要	医療の対象であるヒトを理解するためには、人体の構造と機能の学習がその第一歩となる。この実習では、以下を目標に学習する。									
一般目標	①評価・治療の指標となる骨を正確に触察できる技術を習得する。 ②筋を正確に触察できる技術を習得する。									
テキスト 参考書等	【教科書】機能解剖学的触診技術 上肢（メジカルビュー社） 機能解剖学的触診技術 下肢・体幹（メジカルビュー社） 【参考書】基礎運動学(医学書院) プロメテウス解剖学 コア アトラス 第3版 医学書院									

到達目標		
知識(認知領域)		
①筋:筋の名称、起始、停止、作用、神経支配・走行を覚え、筋模型で説明できる。		
②筋の構造上の特徴を覚え、説明できる。		
技術(精神運動領域)		
①筋の走行を正確に触診することが出来る。		
②患者に不快感を与えない触り方が出来る。		
態度(情意領域)		
・授業に積極的に参加することができる。		
・患者に不快感を与えない立ち居振る舞いが出来る。		
回数	授業内容	授業目標
1	触察:オリエンテーション	あらゆる運動機能系評価の基礎となる骨・筋の触診について、その概要・意義を理解することができる。
2	触察:上肢の骨	上肢骨のランドマークを触診することができる。
3	触察:上肢帯の筋	上肢帯の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
4	触察:上肢の筋	上肢の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
5	触察:前腕の筋	前腕の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
6	触察:手指の筋	手指の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
7	触察:頸部の筋	頸部の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
8	触察:下肢の骨・靭帯	下肢骨のランドマーク、靭帯を触診することができる。
9	触察:骨盤帯の筋	骨盤帯の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
10	触察:大腿の筋	大腿の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
11	触察:足部の骨	足部の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
12	触察:下腿の筋	下腿の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
13	触察:体幹の筋	体幹の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
14	触察:まとめ	実技試験に備え上肢の筋について復習し、理解を深めることができる。
15	触察:まとめ	実技試験に備え下肢の筋について復習し、理解を深めることができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	石丸 拓也・松原 早苗		実務経験紹介	15年間臨床現場での治療経験あり(石丸)	

科目名	運動学Ⅰ					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT/OT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室	
授業概要	解剖学・生理学を基礎として、関節運動に関わる身体の構造や、上肢・頸部・顔面・胸部の関節運動が起こるメカニズムについて学ぶ。									
一般目標	上肢・頸部・顔面・胸部の関節運動について説明でき、そのメカニズムについての知識を身につける。									
テキスト 参考書等	基礎運動学 第6版 中村隆一 著(医歯薬出版) 運動学テキスト 改訂第2版(南江堂)									

到達目標		
知識(認知領域) 各関節の構造の特徴と機能について説明できる。 各関節運動の主動作筋、補助動作筋、拮抗筋を列挙できる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる。 授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	肩関節の機能と構造①	肩関節の構造と機能について説明できる。 肩関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
2	肩関節の機能と構造②	肩関節の構造と機能について説明できる。 肩関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
3	肩関節の機能と構造③	肩関節の構造と機能について説明できる。 肩関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
4	肘関節の機能と構造①	肘関節の構造と機能について説明できる。 肘関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
5	肘関節の機能と構造②	肘関節の構造と機能について説明できる。 肘関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
6	肘関節の機能と構造③	肘関節の構造と機能について説明できる。 肘関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
7	手関節・手指の機能と構造①	手関節・手指の構造と機能について説明できる。 手関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
8	手関節・手指の機能と構造②	手関節・手指の構造と機能について説明できる。 手関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
9	手関節・手指の機能と構造③	手関節・手指の構造と機能について説明できる。 手関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
10	頸椎の機能と構造①	頸椎の構造と機能について説明できる。 頸椎の動きが筋や靱帯で説明できる。
11	頸椎の機能と構造②	頸椎の構造と機能について説明できる。 頸椎の動きが筋や靱帯で説明できる。
12	顔面の機能①	顔面の構造と機能について説明できる。 表情や咀嚼が筋や靱帯で説明できる。
13	顔面の機能②	顔面の構造と機能について説明できる。 表情や咀嚼が筋や靱帯で説明できる。
14	胸部の機能と構造①	胸部の構造が理解できる。 胸部の動きが筋や靱帯で説明できる。 呼吸運動について説明できる。
15	胸部の機能と構造② まとめ	胸部の構造が理解できる。 胸部の動きが筋や靱帯で説明できる。 呼吸運動について説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	濱本 尊博		実務経験紹介	病院勤務において、上肢・頸部などの治療に携わった経験がある。	

科目名	生理学ⅠA					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室	
授業概要	人の体では、酸素や栄養物を全身に運び、逆に二酸化炭素や老廃物を取り除いている。これには、肺などの呼吸器、心臓や血管など循環器および血液が重要な役割を果たしている。この授業では、呼吸器系と循環器系の臓器の構造と機能と血液の働きを学習する。									
一般目標	・呼吸器系の構造、機能、病態に関する知識を修得する。 ・血液の組成と機能に関する知識を修得する。 ・循環器系の構造、機能、病態に関する知識を修得する。									
テキスト 参考書等	生体のしくみ 標準テキスト 第3版 医学映像教育センター									

到達目標		
知識(認知領域) 授業で取り上げた臓器の構造と機能について説明できる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・なし		
回数	授業内容	授業目標
1	人体とホメオスタシス	・人体のホメオスタシスを保つ因子を簡単に説明できる。 ・細胞レベルのホメオスタシスを簡単に説明できる。
2	呼吸器の構造と仕組み	・上気道の構造と仕組みを簡単に説明できる。 ・下気道と肺の構造と仕組みを簡単に説明できる。 ・胸膜・縦隔の構造を簡単に説明できる。
3	ガス交換とガス運搬	・ガス交換について簡単に説明できる。 ・ガス運搬について簡単に説明できる。 ・換気と血流について簡単に説明できる。
4	呼吸機能と検査	・呼吸器運動の調節について簡単に説明できる。 ・呼吸気量について簡単に説明できる。 ・呼吸器系の病態生理について簡単に説明できる。
5	血液の組成と機能/赤血球	・血液の組成と機能について簡単に説明できる。 ・赤血球の構造と機能について簡単に説明できる。 ・血液型について簡単に説明できる。
6	白血球の働き/血液凝固	・白血球の種類と機能について簡単に説明できる。 ・血液凝固と線維素溶解について簡単に説明できる。
7	リンパ球と免疫	・リンパ球の種類と機能について簡単に説明できる。 ・免疫とその異常について簡単に説明できる。
8	循環器系の構成と心臓の構造	・体循環と肺循環が簡単に説明できる。 ・心臓の構造を簡単に説明できる。
9	心臓の興奮と伝播と心電図	・心臓の興奮とその伝播を簡単に説明できる。 ・心電図の記録と意味を簡単に説明できる。
10	心臓の収縮と血液の拍出	・心周期を簡単に説明できる。 ・心臓の血行動態を簡単に説明できる。
11	末梢循環系の構造	・血管の構造を簡単に説明できる。 ・肺循環と体循環を簡単に説明できる。
12	血液の循環	・血圧を簡単に説明できる。 ・血液の循環に及ぼす要因を簡単に説明できる。
13	血圧・血流量の調節	・血圧の調節因子を簡単に説明できる。 ・血管収縮状態を調節する物質を簡単に説明できる。
14	循環器系の病態生理	・高血圧を簡単に説明できる。 ・心機能低下を簡単に説明できる。
15	まとめ	・まとめ課題に対して適切な回答が提示できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			90	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度	○			10	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	乾 誠		実務経験紹介	()内はGPA点数 大学医学部教授として約22年間、基礎医学講座で教育、研究に従事。	